

# 献辞

大門正克教授は、平成31年3月末日をもって横浜国立大学を定年退職されました。ここに『エコノミア』第71巻第1号を先生に捧げ、18年間にわたる経済学部及び横浜経済学会へのご貢献に対して感謝の気持ちを表したいと思います。

大門先生は、昭和52年3月に一橋大学経済学部をご卒業され、同大学院経済学研究科博士課程を単位修得・退学の後、一橋大学経済学部助手、大月市立大月短期大学専任講師・助教授、都留市立都留文科大学文学部助教授・教授を歴任されました。この間、平成8年に経済学博士号を取得されています。その後、平成13年4月に本学部の教授として着任され、大学院国際社会科学研究科及び研究院教授としての期間も含め、現代経済史などの講義や演習を通じて、経済学部と大学院の教育と研究指導にあたり、多数の優れた人材を社会に送り出されました。

研究面では、近現代日本における農村と都市の社会関係及び国家と社会の関係把握を対象とし、明治後期から戦後の農村社会を中心に幅広いテーマで数多くの研究成果をあげられました。なかでも平成6年の『近代日本と農村社会』（日本経済評論社）では、社会経済史の観点から戦前の山梨県や岐阜県等の農村社会の精緻な実証分析を行い、農村社会と国家の関連把握で成果をおさめられました。さらに、平成12年の『民衆の教育経験』（青木書店）や平成21年の『戦争と戦後を生きる』（小学館）、平成29年の『語る歴史、聞く歴史』（岩波新書）等では、聞き取り調査を加え、戦前から戦後の人々の生活の歴史を克明に描き出すことに成功し、オーラルヒストリーの手法を活用した新たな研究スタイルを確立されました。また、歴史学研究会の編集長や政治経済学・経済史学会の理事を務めるなど、学会においても大きな貢献を果たされています。

管理運営面では、平成16年4月から平成20年3月まで教育研究評議会評議員、平成18年4月から平成20年3月まで経済学部国際経済学科長、平成20年4月から平成22年3月まで経済学部長、平成22年4月から平成24年3月まで教育研究評議会評議員、平成27年4月から平成31年3月まで理事（総務担当）・副学長、経営協議会委員、男女共同参画推進センター長を務めるなど、学部内はもとより全学的に極めて重要な職を歴任されました。これらの職務の遂行により、経済学部の授業科目「課題プロジェクト演習」の導入、国際社会科学研究院・学府の改組（平成25年）、都市科学部の新設（平成29年）、経済学部・経営学部の改組（平成29年）、理工学府の設置と環境情報学府の改組（平成30年）等、大学の運営と改革、教育研究条件の整備に多大な成果をもたらすという非常に重要な貢献をされました。

以上のように、大門先生の経済学部の教育研究、そして理事・副学長としての大学運営へのご貢献には極めて大きなものがありました。ここに改めて感謝の念を深めるとともに、大門先生が新たな場で一層のご活躍をなされることを心からご祈念申し上げます。

令和2年11月

横浜経済学会長（横浜国立大学経済学部長）

佐藤 清隆



大門正克 教授